

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170900274		
法人名	有限会社ハートフル拓愛		
事業所名	グループホーム武芸川あかね		
所在地	岐阜県関市武芸川八幡419-1		
自己評価作成日	令和5年11月7日	評価結果市町村受理日	令和6年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2170900274-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Ijvsvocd=2170900274-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた閑静な住宅街に立地し、木造で木のぬくもりと自然の明かりを取り入れた家庭的な安らぎのある雰囲気の中で、利用者様の安心と穏やかな生活を支援するとともに、24時間体制での医療支援体制により、最期まで寄り添う介護も行っていきます。全職員が利用者様本位のケアを心掛けた環境づくりに努めています。  
身体状況により、外出行事、リハビリ、レクリエーション等に取り組み、家族会が組織され、和やかな定期交流も行っていきます。今年度は地域の方にも施設のことをより知っていただけるようにと、ホームページも開設しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、床、壁、廊下、利用者の居室等も木材がふんだんに使われ、吹き抜けや天井からの採光等により室内全体が明るい。2階建ての下の部屋にも光が差し込む構造となっており、温もりの感じられる事業所である。近隣からの野菜等の差し入れを用いた食事を提供するなど、地域との繋がりがりや季節を感じる取り組みを行っている。外国人の受け入れ体制が整っており、定着率も良く、適切な人材育成を行っている。利用者個々の精神症状や行動症状に合わせ、感染対策等も細心の注意を払っている。多忙な業務であるが、経営努力によって余裕のある人員配置を行っており、温かい雰囲気の中で、利用者は穏やかに日々を過ごせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている(参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で運営方針と理念を唱和し、常に意識をし利用者様に尽くす心で理念に沿った介護の提供を共有し実践につなげている。 施設内の各所に運営理念を掲示し、職員がいつでも意識できるようにしている。	理念である「尽くす心で寄り添い、共に生きる。」を玄関、廊下、居間の目につくところに掲げ、職員の名札の裏にも入れて携帯し、常に意識できるようにしている。職員会議で唱和し、日々の業務を振り返りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域の防災訓練に参加することができた。 近隣住民より季節の物の差し入れ等があり、地域の喫茶店にも出かけることができた。	自治会への加入を希望しているが、地域の事情でまだ、未加入である。地域行事の際には、協力金や御神酒の提供を行ったり、地域の防災訓練に参加する等、徐々に繋がりが持てつつある。近隣から野菜の差し入れが有ったり、利用者も地域の人が増えている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は対面での会議を開催し、事業内容状況を報告し意見交換や助言や指導を受けている。 意見交換での助言を支援に生かしている。	運営推進会議には民生委員、地域包括支援センター、市職員、家族、駐在所など、多様な関係者が参加している。運営等に関する意見は、なかなか出ないが、介護に関することや具体策について相談や質問があり、介護の専門機関としての役割を担っている。	参加者が、より意見を出し易くなるよう、事前に聞いたり、用紙に書いてもらうなど工夫をし、運営推進会議がより有意義な意見交換の場になるよう期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修に参加したり、市から介護相談員の受け入れを行っている。運営推進会議には、市の高齢福祉課担当の派遣を受け、事業所の状況報告をし、協力関係を築いている。 市町村より、個別で助言をいただくこともある。	市職員が運営推進会議に参加している。事業所の現状を把握しており、問題解決に向けて話し合い、協力関係にある。研修、感染対策、補助金等の情報を得て、運営に活かしている。コロナ感染者発生時には、市や関係機関と連絡を密にとり、適切な対応を行いながら収束に繋げることができている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会は、3か月に1回職員会議で事例検討を実施。 身体拘束の必要が生じた場合は、家族の同意を得て必要最小限の抑制とし、QOLの維持に努めている。	身体拘束適正化委員会は定期的に開催し、事例検討を行い議事録も残している。全職員に周知徹底し、内容の検討や知識の習得、情報の統一を図っている。入院中に、つなぎ服を着ていた利用者も、退院後は使用せずに、制御しない介護に務めている。	職員一人ひとりが身体拘束に関するチェックリストで、自らのケアを振り返り、身体拘束について正しく学び、再認識している。今後も、抑制しない介護の実践継続に期待したい。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は11月に職員会の議題に取り上げ、施設内研修を行い、虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。 WEB研修に登録し、虐待防止の研修を行った。	現在、運営規定に「虐待防止のための措置に関する事項」を追加する予定であり、今後、職員会議にて周知徹底を図ることとしている。内部研修も実施しており、虐待に関する知識の習得を通して防止に努めている。	虐待防止の為に、気づきのチェックリスト活用の取り組みを行なう事や、今後、運営規定の変更も予定されている。更なる虐待防止に関する研修や運営規定の整備に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は対象者がいないため、職員への研修は行われていない。 今後、学ぶ機会を持ち実践に生かせるようにしていく。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を説明し、利用者や家族様より承諾を得ている。 改定の場合にも、都度家族様に理由を述べ、了承を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は隔月での家族会を開催し状況を報告、意見などを聞き運営に反映させている。 家族様の来所時にはニーズの聞き取りを行い、支援内容に反映している。	隔月で開催する家族会があり、家族同士や事業所との意見交換、情報共有の場となっている。毎月、ホームだよりを発行し、行事予定や支援内容を掲載しながら家族等との信頼を深めている。家族の希望もあり、居室での面会を検討している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時に意見や提案、要望などを取り入れ、職員と意見交換の場を設けている。また、気づいた時にはすぐにメモに残し必要事項の周知、意見の反映に努めている。	毎月の職員会議は、全員参加で行っている。管理者は毎日現場に入り、職員の意見が常に聞ける体制が出来ている。代表も毎日来所し、利用者や職員との関係構築に努めている。職員の意見等は、管理者から代表に伝えている。職員が希望すれば、個別面談の機会もある。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	多様な人材を採用し、職員が制限されることなく向上心を持ち働ける職場環境づくりに努めている。	人事考課は年2回行われ、必要な資格取得支援や研修費用の補助制度がある。有給休暇も全員が取得できる。言語の面で壁が生じやすい外国人職員の対応には、日本語に長けている外国人職員の協力で、思いや意見の聞き取りも円滑に行われている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する職員を募り、オンライン研修や外部研修を実践している。研修後は職員会議にて内容を報告し、情報を共有できるようにしている。 職員には初任者研修の取得も勧めている。	研修は職員の希望を募り、オンラインや外部研修を受講している。報告書を全職員で閲覧し、内容を共有している。初任者研修については、シフト調整を行いながら全員取得を目指し、質の向上を図っている。新人や外国人職員については、OJTを用いて教育をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多職種研修やリモート研修を通じて、研修後も外部の施設との情報交換や連携をとることが増えた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安感や孤独感を軽減できるように配慮しながら、余暇時間を利用したコミュニケーションにより関係性を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や一人ひとりの希望や思い、表情などに気を配り職員間で情報の共有に努めている。	職員の配置数が規定より多く、余裕をもって支援が出来る体制にある。利用者一人ひとりの話を聞き、思いを把握している。入居を躊躇する人には、適した施設の検討や紹介を行う等、本人・家族がより安心できる社会資源に繋げていくなど、柔軟に対応している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議にてカンファレンスを行い、家族の思いや主治医の意向、居室担当者の意見も取り入れ状態変化を見直し、チームで作る介護計画を作成している。	担当者会議は半年毎に行い、本人・家族の参加を得て開催している。モニタリングは3か月毎に行っている。居室担当職員しか知り得ない利用者の状態や、ケアの気づきが具体的に記された業務日誌、職員会議やカンファレンスからの情報を計画作成に活かしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はipadに入力している。変化や気づきがある時は、朝夕の申し送り時に伝え、全員が共有や意見交換をできるよう職員会で情報の共有を行っている。	日々の個別記録がタブレットでの入力となり、全職員で取り組み、作業の効率化を図っている。利用者の状態報告や、その他特変事項などは手書きの記録とし、必要に応じたツールを用いながら情報の共有を図っている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーション、訪問歯科、訪問理美容を利用し、ニーズに合わせ柔軟に対応できるようにしている。 家族様の希望により、リモート通話の準備の対応もやっている。	家族からの希望に応じ、居室に家族持ち込みのパソコンを設置し、リモート面会を日常的に行えるよう支援している。コロナ禍前は遠方からの面会者の宿泊希望にも応じる等、柔軟な対応をしている。歯科の訪問診療の受け入れや主治医への受診の際は、職員が送迎を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の喫茶店への外出や、散歩を楽しんだり、地元の行事にも参加させていただいた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医について説明し、希望される利用者には月2回の訪問診療を確保している。専門医への通院は家族に依頼している。医療連携体制をとるため、希望があれば訪問歯科の訪問も月2回依頼している。	かかりつけ医は入居時に選択可能で、専門医への受診は家族と協力して行い、身体状況に応じて可能な範囲で送迎等をしている。また、介護タクシーを紹介するなど、円滑な受診のための支援もしている。受診時には、利用者の日頃の状態についての情報も担当医に伝えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要な利用者情報を書面にて提供している。また、退院時には医療相談員や看護師とのカンファレンスを実施し、病院との連携を図っている。	入院の際は、利用者の状態や家族の希望に応じて、退院後の部屋を確保している。本人の入院への精神的不安を軽減できるよう、事業所の対応力について医師と相談しながら、早期に退院ができるようこまめに連携を図っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化、終末期に関する説明を行っている。また、終末期には利用者の詳細な様子を主治医や訪問看護ステーションと共有し、支援に取り組んでいる。マニュアルの見直しも検討する。	職員は、利用者の人生の終末期を家族と共に携わることに感謝の思いを持って対応している。看取りに対応した職員が中心となり、看取り後の振り返りを職員間で共有し、次の支援に繋げ、職員の不安軽減に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は実施できていない。 今後、研修が再開されたときには消防署へ協力を仰ぎ、普通救命講習を受講していきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は自治会主催の避難訓練に参加し、訓練で学んだ災害時の避難方法や対応についての情報は職員会議で周知した。 BCPIについても現在策定を行っている。	地域の防災訓練に参加するなど、自治会と繋がりをもち、協力体制の構築に努力をしている。近隣住民の高齢化もあり、協力を得るには難しさもある。、備蓄品やヘルメットなどを完備し、利用者と一緒に年2回の避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心やプライドを損ねるような言葉がけや対応を行うことが無いように職場内研修を行い、常に意識づけをしている。	接遇研修を行いながら、基本的対応やさりげないケア、羞恥心に配慮した対応について学んでいる。常に利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねないよう努め、毎月の便りの写真についても、同意が得られた人のみ掲載するようにしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に沿った介護や自己決定を否定しないように配慮している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を決めつけるのではなく個々のやりたいことを傾聴し希望に沿った支援を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際には、利用者の好みの食事支援を行っている。 コップやお盆洗い、拭くことに関して利用者と共に準備、片付けを行っている。	副食は宅食を利用し、主食と汁物、フルーツは事業所で用意している。芋の皮むきや干し柿づくりなど、利用者もできる範囲の作業に関わっている。手作りのおやつや誕生日のリクエストメニューなど、行事食で季節感が感じられるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々にあった食事量、食事形態でカロリー計算された副食を提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、訪問歯科診療時に義歯調整や口腔内ケアを行ってもらっている。	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、利用者の身体状況に応じて職員が介助しながら、清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かり、不安を感じる人には臨機応変に対処している。訪問歯科診療の導入で、口腔環境の維持に努め利用者のQOLの向上を目指している。	

岐阜県 グループホーム武芸川あかね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の意向に沿い、トイレで排泄ができるように支援している。夜間はポータブルトイレを使用することで、おむつの使用を減らすように努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ジャグジー付きの機械浴、檜風呂を設置し、身体状況に合わせて週2回の入浴を支援している。入浴が楽しみになるような声掛けや、気の合う職員との入浴を試みている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日に、順次布団干しやシーツ交換を行い、気持ちよく眠れるように支援している。 また、日中も休息できるよう個々のペースに合わせた支援をしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の健康管理の為、薬の情報を理解し用法容量を守って使用するようにしている。 薬が変更になった時には、効能について職員で周知している。	過去に誤薬や落葉があったが、名前や時間等を声に出して確認し、飲み込みまで見届けることで再発防止に努めている。飲み込めない利用者には粉碎対応している。処方内容変更の場合は状態を観察し記録している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた茶碗洗い、お膳拭き、モップ掛け、新聞たたみ等を職員とともに رفتり、気分転換の支援として散歩や外出等の機会を設けている。	利用者の残存機能に注目し、業務で使う雑巾を縫ってもらったり、作品作りや塗り絵等、利用者それぞれが集中できる事を継続できるよう支援している。本人が役割を持って作業を担うことが自信に繋がるよう、職員は感謝の言葉掛けをしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの規制緩和により、外出の機会を設けることができた。家族様の対応も含め、市内の施設へ外出をする機会を増やしている。	管理者は、余裕ある支援ができるよう人員配置を工夫し、普段でも散歩や喫茶店への外出等、自然豊かな環境の中で季節を楽しめるよう支援している。「否定しない介護」を目標とし、外出願望がある利用者には、その都度一緒に外に出るなど、出来る限り満足感を得られるまで付き添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は家族より預かり、施設にて管理している。 また、自己にて財布を所持されている利用者もいる。外出行事等では本人の希望に応じて買い物代行を行っている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるように対応し、1日おきでのリモート通話や手紙のやり取りができるように支援している。自己にて管理ができる利用者には、個人持ちの携帯電話を使用していただいている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた作品の展示や掲示を行い、特に衛生面に注意して清掃を行っている。 今年度はユニット毎に区切り、各ユニットで工夫を凝らした取り組みを行っている。	対面式キッチンからリビングを見渡すこともでき、調理や歓談などの生活音が自然と聞こえる、家庭的な雰囲気が漂っている。居室は広く畳敷きになっており、掃き出し窓からは日差しが入り、明るい。家族の要望もあり、パソコンを持ち込んでオンライン面会もできるよう支援している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルでは気の合った利用者同士で会話ができるように席を配置し、思い思いに過ごせるような環境づくりに努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳になっていて、使い慣れた家具等を持ち込んで頂いている。また家族の写真を飾っていただく等して、心地よく過ごしていただけるよう環境づくりに努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の目線の高さに合わせ、個々の表札を居室の入り口に掲げ自立できるように配慮している。トイレや浴室も分かりやすく表示をしている。		